

| | |
|-----|--------------|
| 発行日 | 令和4年9月30日 |
| 発行元 | 災害対策課 |
| 所属長 | 課長 森本 仁信 |
| 電話 | 06-6489-6165 |

防災対策情報便



令和4年9月号

1 まだまだ台風発生の可能性はあります！！

災害発生に備えて、日頃からどのように災害情報を取得すればよいのかを確認する必要があります。ひとつの手段だけではなく、なるべく多くの手段で情報を取得できるようにしておきましょう。

便利なテレビの機能

テレビの「d ボタン(データ放送)」とは、番組をより楽しむための情報などを見ることが出来る便利な機能です。災害時には、お住まいの地域の避難情報や河川の状況などを「d ボタン」で知ることができます。

テレビの機能ですので、事前登録やアプリのダウンロードなどは不要です。リモコンを操作するだけでさまざまな情報が手に入る便利な「d ボタン」を活用して、お住まいの地域の災害情報を取得しましょう

【d ボタンの使い方】

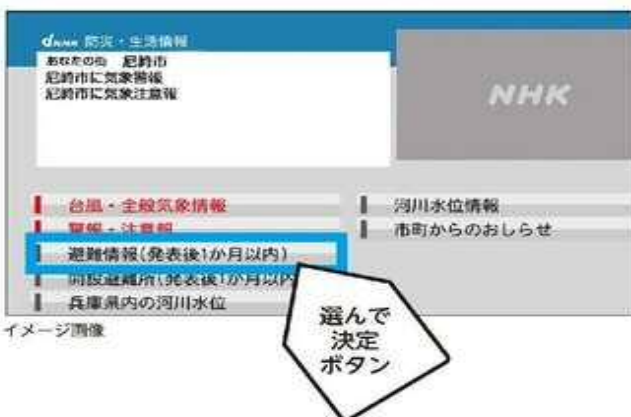
①リモコンの「d」と書かれたボタンを押す



②「防災・生活情報」を選んで決定ボタンを押す



③「避難情報」を選んで決定ボタンを押す



④本市で避難情報が発令されているエリアを確認



【d ボタンで取得できる情報の例】



d ボタンでは、警報、注意報の他、河川の水位状況や開設した避難所情報も確認できます。
ぜひ、身近なテレビを使って、尼崎市の最新の災害情報を取得しましょう。

避難所の開設・混雑状況をリアルタイム配信します

尼崎市では、コロナ禍の避難所での混雑を避け、安心・安全な避難所を選び、スムーズな避難行動につなげるために、災害時の避難所の開設状況や混雑状況などをリアルタイムで配信します。



最寄りの避難所の開設・混雑状況を近い順に表示します。
混雑状況の表示は、
「空き」「やや混雑」
「混雑」「満員」の4段階です。



スマートフォン等の位置情報機能をONにすると、避難所までのルートを地図上で検索できます。



道路通行止め情報や停電等のライフライン情報等、災害時の被害状況の一部を地図上で確認できます。

使い方

市ホームページや尼崎市防災ネット、市公式 SNS 等で URL を配信しますので、専用サイト（右の QR コード）にアクセスしご確認ください。

情報確認方法



2 持ち出し品のチェックをしましょう

家族構成や食物アレルギーの有無などを考慮して、それぞれの家庭にあった備蓄や持ち出し品の準備をしましょう。



| 非常時の持ち出し品 | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 飲料水・非常食品 | <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 乾パン <input type="checkbox"/> 缶詰 <input type="checkbox"/> ビスケット <input type="checkbox"/> チョコレート |
| | <input type="checkbox"/> カップめん <input type="checkbox"/> アルファ米 |
| <input type="checkbox"/> 貴重品 | <input type="checkbox"/> 現金(小銭も) <input type="checkbox"/> 預貯金通帳 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 運転免許証 |
| <input type="checkbox"/> 衣料品 | <input type="checkbox"/> 衣類・下着 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 毛布・寝袋 <input type="checkbox"/> 雨ガッパ <input type="checkbox"/> 軍手(厚手の手袋) |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ、予備電池、携帯電話 | |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | |
| <input type="checkbox"/> 医薬品 (特に、持病をお持ちの方は、服用中の薬を忘れないようにしましょう。) | <input type="checkbox"/> ばんそうこう <input type="checkbox"/> 包帯・さす葉 <input type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> 服用中の薬 <input type="checkbox"/> 生理用品 |
| <input type="checkbox"/> 生活日用品 | <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> ライター・マッチ <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> ラップ |
| | <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 紙コップ・紙皿 <input type="checkbox"/> 割りばし <input type="checkbox"/> セロテープ <input type="checkbox"/> ロープ |
| <input type="checkbox"/> 家族構成によって必要なもの (小さな子どもや介護が必要な方がいる家庭など) | <input type="checkbox"/> 粉ミルク・ほ乳びん <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 介護用品 <input type="checkbox"/> ペットフード |
| 非常備蓄品 (数日間を自足できるように3日分を目安に用意しておきましょう。) | |
| <input type="checkbox"/> 飲料水 | 9リットル (1人3リットル×3日分) |
| <input type="checkbox"/> 非常食品 | <input type="checkbox"/> 缶詰2~3缶 <input type="checkbox"/> ビスケット1~2箱 <input type="checkbox"/> 板チョコ2~3枚 <input type="checkbox"/> アルファ米 |
| <input type="checkbox"/> 衣料品 | <input type="checkbox"/> 衣類 (スウェット上下、セーターなど) <input type="checkbox"/> 下着2~3組 |
| ※アルファ米は、一度炊いた米を乾燥させたもので、お湯や水を注ぐだけで食べられ、非常食としても活用できます。 | |

3 防災マップ作成のための街歩きをしました！！

9月17日(土)に中難波自主防災会で、防災マップ作成のための街歩きを行いました。

当日、台風が接近している中での街歩きでしたが、自主防災会の皆様の安全を第一に1時間程度かけて、①災害発生時危険な場所②防火や防災に関するもの③災害後に役立つものを地図上にマーキングし、詳細を地図に落とし込んでいきました。

昨年、一昨年は、新型コロナウイルスの影響などで中止を余儀なくされていましたが、今回ようやく街歩きが実現でき、大変充実した一日になったとおっしゃっていました。

市民の皆様も、是非ご自身の家の周りや通勤・通学、また避難する想定のを防災の視点で歩いてみてはいかがでしょうか。

【防災マップ作成の様子】



4 地域の防災つなぎ隊！！



今回は、戸ノ内自主防災会の山口会長にお話を伺いました。この地域では、インタビューに伺った当日も地域で集まり歌を歌ったり、地蔵盆などで子どもとの関わりを積極的に行っているとおっしゃっていました。お話を伺っていると、この地域は特に地域コミュニティを非常に大切にされていて、毎日のようにいわゆる「顔の見える関係づくり」を自然と構築できるような取り組みをされていることを感じました。

Q 地域の防災活動を行うにあたって意識されていることは何ですか。

A まず、訓練することだけを目的とするのではなく、訓練を行う名目で「地域の人が集まる」ことを目的としています。常日頃から、様々な催し物を通して地域コミュニティのつながり自体を意識するようにしています。
また、訓練自体も毎回同じものをするのではなく、今までにしたことがない訓練を実施するように心がけています。

Q 今後、地域における課題や取り組んでいきたいことは何ですか。

A 夜間訓練を是非行いたいと思っています。ただ、やはり参加者の多くが高齢者で、非常にハードルが高いことが懸念事項です。
ですので、地域の中心となる人物に参加してもらい、スモールスタートで、そこから段々広げていけたらと思っています。

Q 行政に取り組んで欲しいことは何ですか。

A 災害時の体制として、行政に多くの人材派遣や体制の整備を行って欲しいという気持ちはありますが、実際「行政のスリム化」などがある中で、行政側も少ない人員で業務を行っているのは承知しているので、だからこそ地域の結束が重要で、自分たちでまず何とか対応できるように防災訓練を行ったり、日頃からの地域のつながりを密にするように意識しています。

